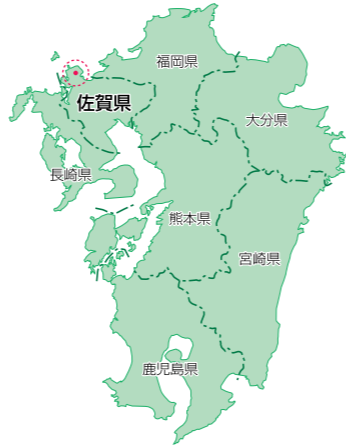




アクセスマップ
Access Map



廃棄物処理施設 最終処分場

財団法人 佐賀県環境クリーン財団

廃棄物処理施設最終処分場

〒847-0314 佐賀県唐津市鎮西町大字菖蒲

■発注者

財団法人 佐賀県環境クリーン財団

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号

■設計施工監理

日本技術開発株式会社 九州支社

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-13-21 (エフビル)

■施工者

清水・松尾・岸本建設共同企業体

清水建設 株式会社

〒105-8007 東京都港区芝浦一丁目2-3 シーバンスS館

松尾建設 株式会社 佐賀支店

〒840-8666 佐賀県佐賀市八幡小路1番10号

株式会社 岸本組

〒847-0881 佐賀県唐津市竹木場5206番地82



自然エネルギー100%再生紙を使用しています



環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています

唐津城



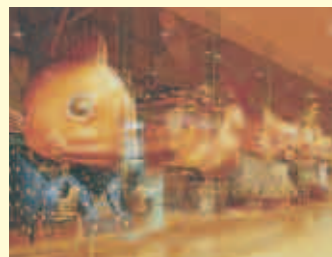
美しい天守閣を持つ唐津城、別名「舞鶴城」は唐津の初代藩主、寺沢志摩守広高が1608年に築城。現在の唐津城は昭和41年に造られ、藩制時代の資料館、武具の展示館として市民や観光客に親しまれています。

虹の松原



唐津湾沿いに、弧を描く「虹の松原」。江戸時代に防風・防潮林として植林したのが始まりで、全長5km、幅1kmの松林は、約100万本とされています。日本三大松原の一つに数えられ、国の特別名勝に指定されています。

曳山展示場



豊饒の秋祭「唐津くんち」(毎年11/2～4)で使われる14台の曳山がずらり勢揃いしています。多種多様な姿勢の造形美は、稀に見る優れた工芸品として、佐賀県の重要有形文化財に指定されています。

七ツ釜



七ツ釜は玄武岩が玄武灘の侵食作用によって削られてできたものです。間口3m、奥行きは110mあり、満潮時には舟で洞窟の中に入ることができます。国の天然記念物に指定。

廃棄物処理施設最終処分場の概要

廃棄物の早期の安定化を図る技術を駆使し、人と自然の共生のために努めます。



最終処分場建設の目的

佐賀県内においては、管理型最終処分場の残存容量が減少してきており、適正な廃棄物処理施設の整備が求められていました。このため、県・市町村・産業界が一体となって、県民の生活環境の保全と産業の健全な発展に寄与することを目的に公益法人「財団法人佐賀県環境クリーン財団」を設立し、豊かな自然と調和を図りながら、安全で信頼性の高い処理施設を設置することにしました。

工事概要

■工事工期:平成15年4月18日～平成18年12月28日

主な工種	内容
場内造成工	切土工：554,000m ³ 、盛土工：367,000m ³ 、岩掘削工：100,000m ³
遮水工	ベントナイト混合盛土工：20,800m ³ 、遮水シート工：43,400m ²
雨水集排水工	水路工：L=3,190m 地下水集水設備工 φ100～600：L=2,880m
浸出水集排水工	幹線（φ500：L=246m、φ400：L=80m）
	枝線（φ200：L=698m） 無孔流末管（φ630：L=160m、φ560：L=198m）
発生ガス対策工	ガス抜管 φ200：L=684m
道路設備工	埋立地周回道路：717m、埋立場内道路：185m
防災調整池工	B調整池 重力式擁壁：L=80m、もたれ式擁壁：L=140m

最終処分場の規模

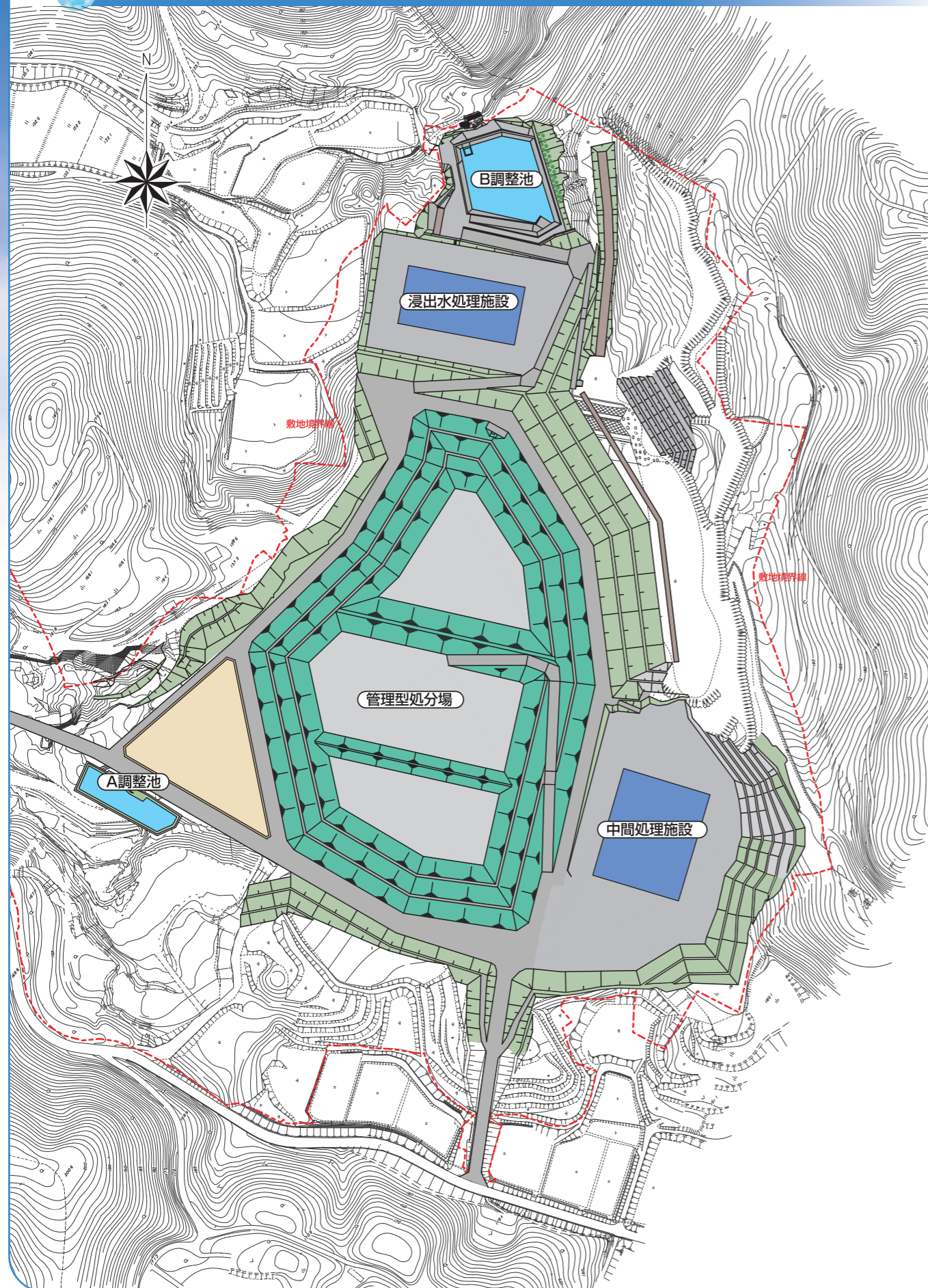
最終処分場建設地は、佐賀県唐津市鎮西町菖蒲で、その規模は埋立容量41万3,000立方メートル、埋立面積約3万9,000平方メートルです。

全体施設の概要

施設の種類の		内容	
管理型最終処分場	管理型処分場	●埋立面積：38,890m ² ●埋立容量：413,000m ³ （準好気性埋立構造）	
	浸出水処理施設	●処理能力：130m ³ /日 ●調整槽容量：16,500m ³	
中間処理施設	焼却施設	●処理能力：84t/日	
	破砕施設	●処理能力：12t/日	
	中和施設	●処理能力：6t/日	
関連施設	計量棟	●1棟	
	防災調整池	A調整池	●面積：約1,700m ² ●高さ：1.6m ●調整容量：約1,500m ³
		B調整池	●面積：約2,300m ² ●高さ：5.5m ●調整容量：約10,000m ³
	管理用道路	●1車線：L=約1,000m W=4～6m	
	進入道路(搬入道路)	●2車線：L=約650m W=7.5m	



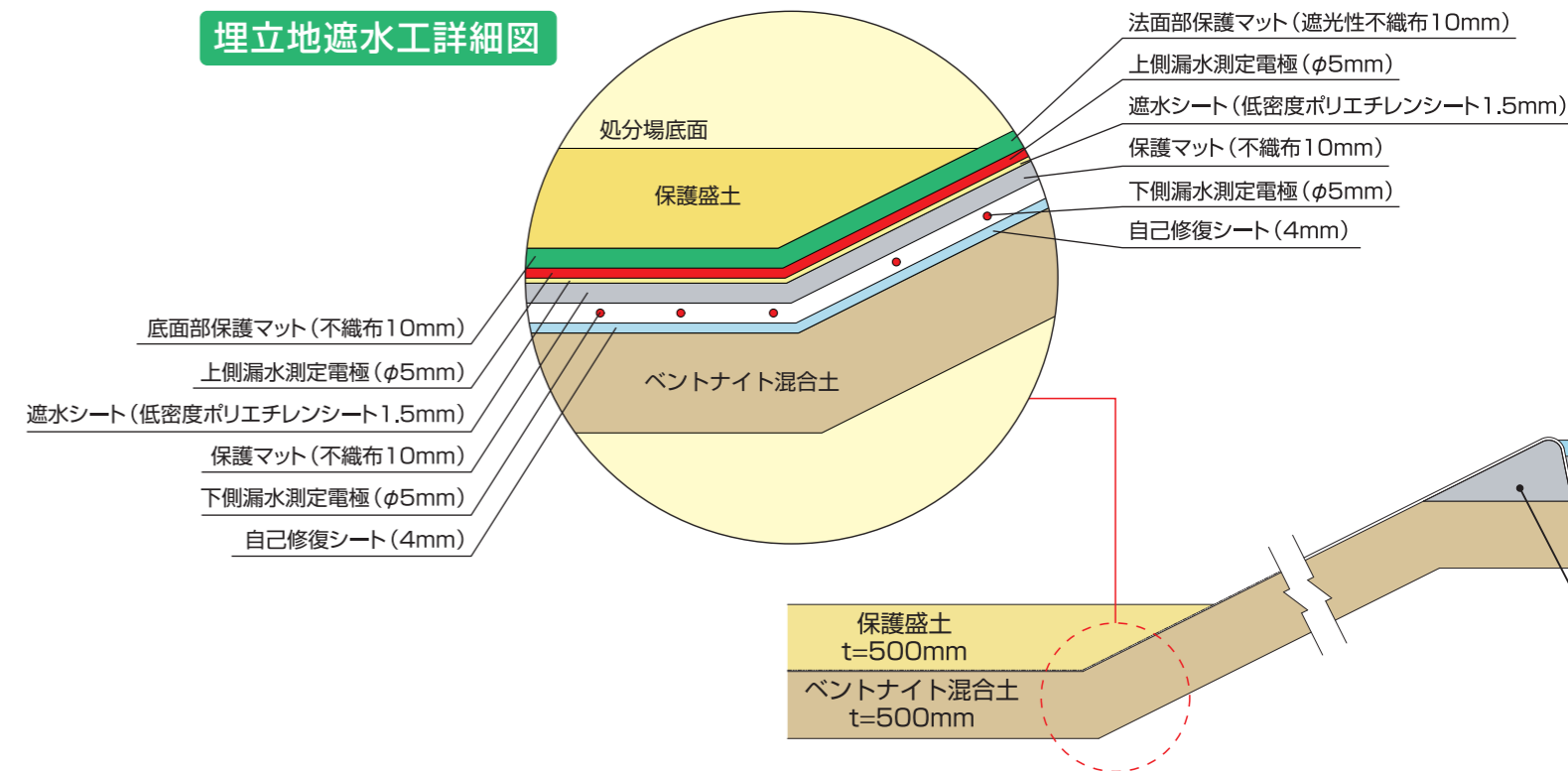
施設全体配置図



埋立地遮水工標準断面図

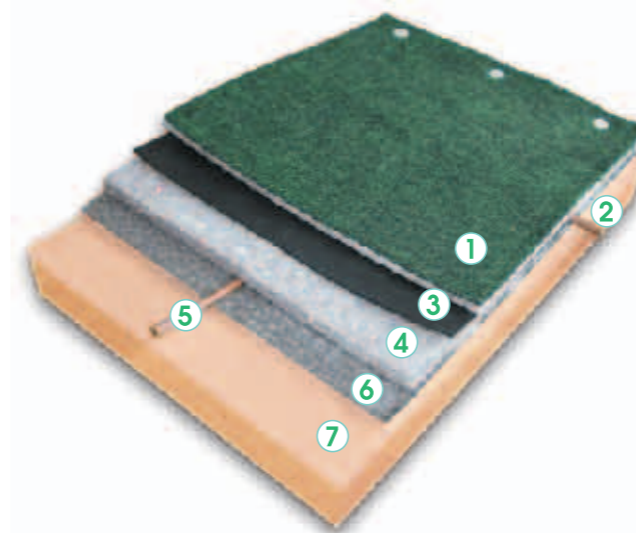
埋立地はごみを埋立てる施設で、内側が遮水構造になっており、埋立物や浸出水が外部に出ないようにしています。

埋立地遮水工詳細図

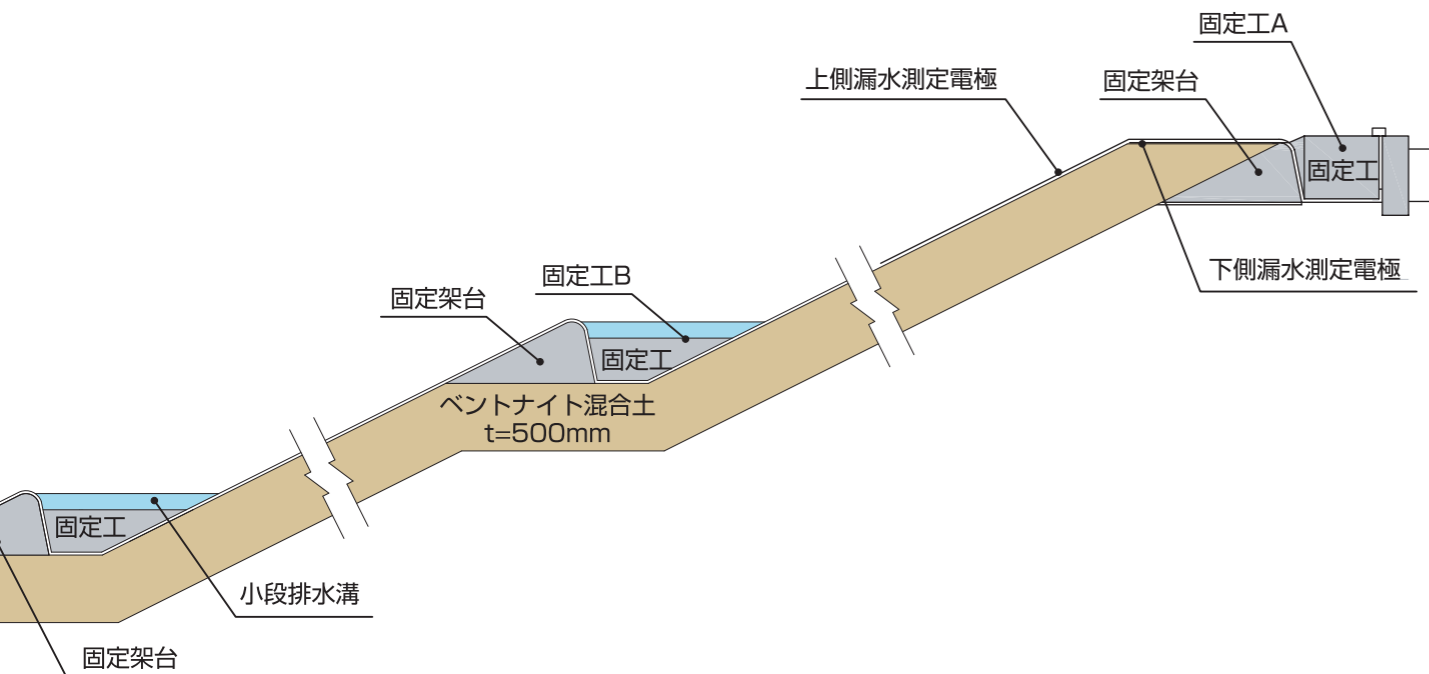


遮水工構造の特長

遮水シートとベントナイト混合土を組み合わせた安全性の高い遮水システムを採用しています。

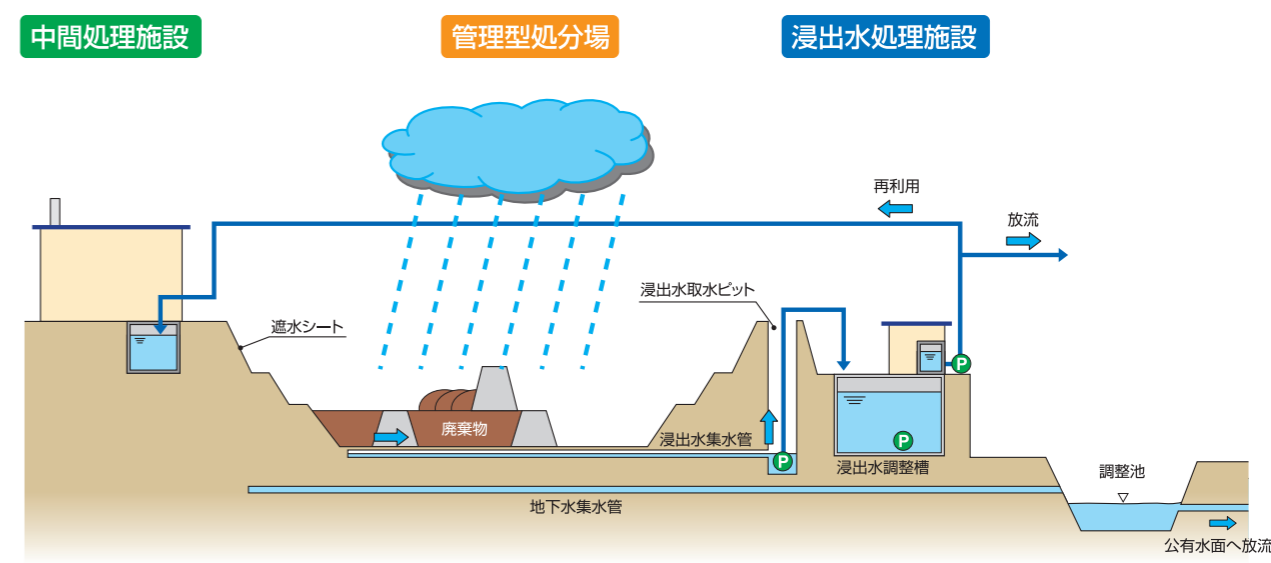


- 1 **法面部保護マット (遮光性不織布)・底面部 (不織布)**
合成繊維を原料とした、環境に配慮した不織布を採用しています。これは埋立ごみや紫外線等から遮水シートを保護します。
- 2 **上側漏水測定電極**
最終処分場に敷設された遮水シートを監視し、万一のシート破損時には破損箇所が特定できます。最終処分場では、電氣的に絶縁性のある遮水シートで覆われた構造となっており、万一シートが破損し浸出水が漏れた場合には、電気が流れることで検知します。
- 3 **遮水シート (低密度ポリエチレンシート)**
柔軟性の高い合成樹脂系 (低密度ポリエチレン) 遮水シートです。また、地盤の変動に対しても高い伸縮性と強度特性を保ちます。
- 4 **保護マット (不織布)**
- 5 **下側漏水測定電極**
- 6 **自己修復シート**
超吸収水膨潤性繊維が、破損しても自己修復により遮水層を復元します。
- 7 **ベントナイト混合土**
ベントナイト混合土は、透水係数 $1 \times 10^{-6} \text{cm/sec}$ 以下の高い遮水性と汚染物質などを濾過吸着する機能を持ちます。また地震や乾燥などでクラックが発生しても、高い粘性により遮水性を復元します。



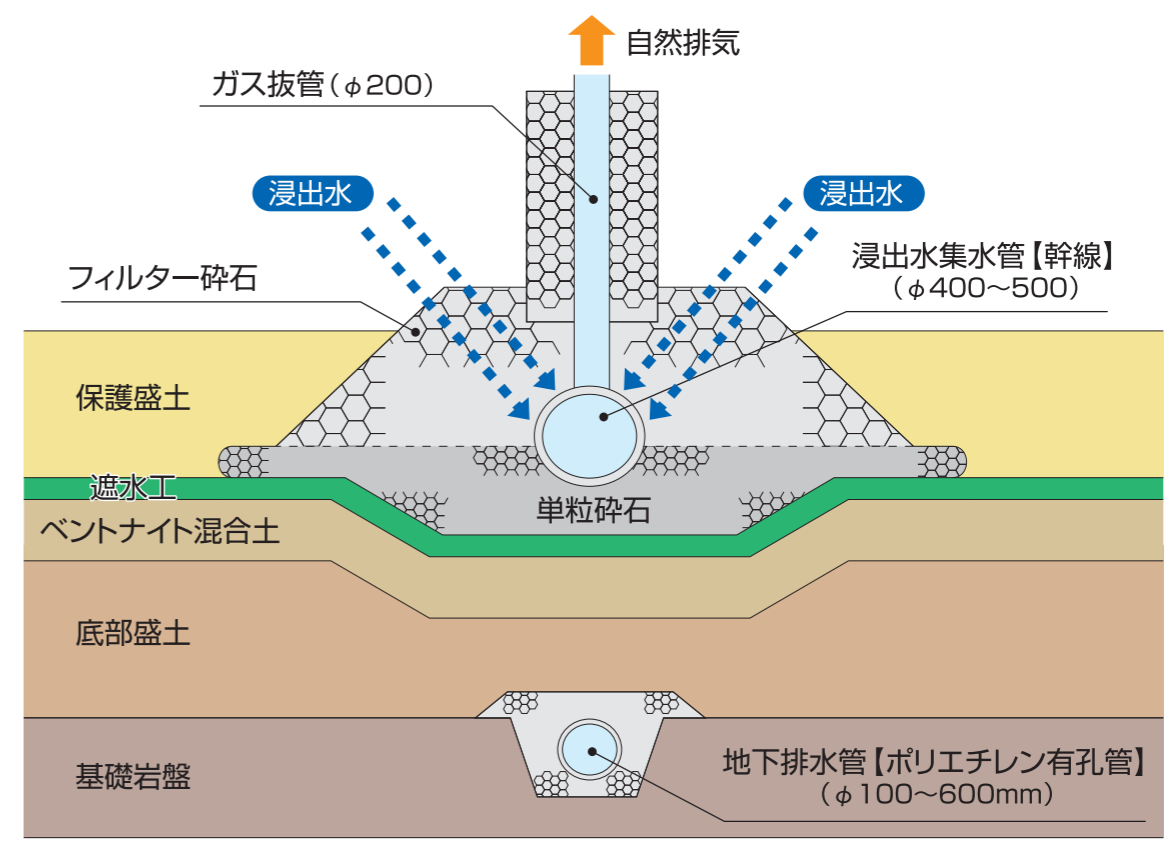
浸出水集水フロー

降雨により埋立地内で発生する浸出水は、取水ピットから調整槽にポンプにて導水します。調整槽に一旦貯留された浸出水は、前処理設備（カルシウム・重金属除去）、生物処理設備、凝集沈殿処理設備及び高度処理設備にて処理します。処理水は中間処理施設の冷却水として再利用し、余剰水は環境保全協定書に基づき放流します。



浸出水集水断面図

浸出水集排水施設の機能は、浸出水を速やかに浸出水処理施設へ導くことと、集水管を通じて埋立層内へ空気を供給し、埋立物の早期安定を図ることです。



漏水検知システム

シート内には電極が張り巡らされており、万一シートが破損し、浸出水がしみ出したとしても漏水箇所を検知することができるので、より安全性が確保できます。

